琵琶湖・森林政策特別委員会資料1-2
令和6年5月21日（火）
教育委員会事務局幼小中教育課

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

～みずうみに学んで世界の明日をひらく人～

フローティングスクール学習（フローティングスクールに関わる単元）

①子どもたちから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つける。
②子どもたちが、探究的な学習のよさを理解し、「楽しい」と感じる。
③まとめ・表現し、新たな課題を見つけ、さらなる問題解決を始める。

【乗船までの学習】

FSのサポート

目標を実現するにふさわしい探究課題設定へのサポート

・単元計画作成手順、単元計画例、ワークシート例の公開
・ホームページ、動画による学習のきっかけとなる情報の提供
・教職員研修会の実施
（琵琶湖博物館との共催研修、うみのこ見学乗船）
・びわ湖学習備品の貸出

【乗船中の学習】　探究的な学びを支える、「本物体験」「感動体験」「協働体験」

地域の人材や友から学ぶ

・寄港地活動
・湖の子の夕べ
・学習のまとめ・ふりかえり）

びわ湖や郷土から学ぶ

・湖水や生き物の観察・実験
・展望活動
・ウォークラリー
・滋賀県産の食材を使った食事

船から学ぶ

・船内生活　・避難訓練
・集団宿泊体験
・再生可能エネルギー（BDF）の利用

フローティングスクール乗船時における学び

①五感をとおした学びと、学びにおける「感動」
②「協働的な学び」の充実
③学校での学習との間につながりがある活動
④新たな発見や新たな疑問が生まれる工夫

ウォークラリー

プランクトン採取

展望活動

交流ボードの活用

確認し合いながらの学習

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
乗船まで	◎子どもたちから湧き上がる疑問や関心に基づく課題の設定 ◎学習の出口を明確にした導入 ○個々の課題をサポートする学習コンテンツの利用	◎学びを交流する場の設定 ○外部機関との連携 ・県水産課、農政課、統計課、環境政策課、琵琶湖博物館等	◎探究的な学習（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表のサイクル）のよさを実感できる単元構想 ○「考えるための技法」の活用
乗船中	◎五感を使って琵琶湖の自然や生命に直接触れる活動の設定 ○個々の課題についての発見・発展ができるワークシートの工夫	◎他校を含む児童との協働学習 ・ウォークラリー ・交流ボード ・学習のまとめの発表 ○外部機関との連携 ○ゲストティーチャーとの交流	◎個々の課題や事前の学習と乗船中の体験をつなげる工夫 ◎新たな疑問が生まれるような学習設定
乗船後	◎乗船時の経験を個々の課題にリンクできるような指導 ○新たな疑問と課題に答える学習コンテンツの紹介	◎個々の学びを交流する必然的な場の設定 ○外部機関との連携 ○地域の方やゲストティーチャーとの交流	◎概念的知識（多様性・相互性・有限性等）となる支援 ◎自己の生き方を考えることやや、社会への参画につながるまとめ ○「考えるための技法」の活用

◎は必須

「考えるための技法」＝ 順序付ける、比較する、関連付ける、多面的に見る、多角的に見る、理由づける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する

【乗船後の学習】

FSのサポート

学校における探究的な学びをサポート

・子どもたちが設定した課題解決のための学習コンテンツを充実
・外部機関との連携をサポート　・電話やファックスによる取材受付
・学習で使える「考えるための技法」の紹介　・まとめの活動の例示